

	<h1>みずみどり</h1>	<p>2000年9月15日 第20号          発行：いたばし水と緑の会 事務局          年会費 2,000円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会          ホームページ <a href="http://www.ne.jp/asahi/nature/land/index.htm">http://www.ne.jp/asahi/nature/land/index.htm</a>          E-mail: mizumidori@nifty.com          〒173-0032 板橋区大谷口上町28-7 江戸方</p>
---	----------------	--

## 赤塚城址の草っ原でバッタを追ひ、 鳴く虫を聞いてみた

バッタや鳴く虫が住む草原、東京で近年無くなってしまった自然環境の代表であろう。人手が適当に加わってこそ維持される草原に暮らす動植物は、今、東京の町中から消え失せようとしている。モグラ、ニホントカゲ、トノサマバッタやショウリョウバッタ、蝶ではツバメシジミ、モンキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、野草ではキジムシロ、オトコエシ、アザミ類（板橋で残っているのはタイアザミだけ）と名前をあげればきりが無い。まだ生き残っている草原性の動植物を守りたい、子供たちがバッタを追いかける原っぱを作りたい。

赤塚公園の城址広場の一画に東京都公園協会の協力を得て、そんな夢が少し実現出来た。どんな虫が住み着いたか、鳴く虫は何がいるだろう、ということで9月9日にシェアリングアース協会の藤本和典氏を講師に観察会を開催。ウスバキトンボの渡りや、枝先に産まれたセミの卵の運命、コウモリが入る隙間の幅などの興味深い話を伺いながら草っ原に向かった。

コバネイナゴや、雄雌で大きさも大きさも全く違うショウリョウバッタがすぐ目に入る。オンブバッタは沢山いるし、赤塚では珍しいトノサマバッタも一匹見つかる。ここで育ったやつか、荒川から飛んできたのかはわからない。やぶをガサコソと歩くとウスイロササキリが飛び、口の赤いクビキリギリス、細くて羽の長いツユムシも数が多い。コオロギ類では体長1cm足らずの小さいマダラスズ、3~4cmもある美声のエンマコオロギが多く、ハラオカメコオロギも見られた。

ヒグラシやツクツクボウシの鳴き声が止み、こんどはコオロギ、キリギリス類の出番、と思ったら耳につくのはアオマツムシばかり、それでもエンマコオロギ、マダラスズが鳴き、ハヤシノウマオイの声もなんとか聞けたようだ。

虫の数の多さでは一級品と、藤本先生のお墨付きを頂く。バッタ類を餌にするモズも増えるのではないかとのこと。夏にモズを見て見たい、こんな草地在ちこちに増えれば、ひょっとして。



ツユムシ、鳴き声は目立たない

## アメリカザリガニは凄い！

佐藤 修

アメリカザリガニ（以下ザリガニ）は食用ガエルの餌として昭和5年に現在の鎌倉市に移植したのが最初で、その後、旺盛な繁殖力も手伝い、20年の間に本州、四国、九州の各県に分布を広げたとされる。

メスは、温暖期（6～10月の水温18～25℃）に200～1,000個の卵を生むとされる。2週間で孵化した後、さらに約2週間経て体長約8mmの小エビとなり摂食も可能になる。脱皮を繰り返し、個体差はあるが1年後に体長約4cm、2年後に約6cmに成長する。雑食性で何でもよく食べるが、一方でかなり長期間の絶食にも耐えるようである。湯水で水が干上がっても穴の中や石等の裏でじっと待つ忍耐力も併せ持つ。（冬眠も同じようにする）かくして生命力は天下一品なのである。ただしザリガニにも弱点はある。それは流れの早いところ（底泥が砂質になるような流れの早い場所は苦手なようである）、一年中低い水温の場所（本来暖かいところに生息する動物であり、標高の高いところや北海道には分布していない）、比較的浅く（サギ等に食われやすい）底質が硬いところ（穴を掘りにくい）である。ザリガニに居心地を悪くさせるには、停滞水域なら現在のところ、穴を掘らせないよう粘土などで底質を固め、水深20cm以下にするしか手はないかもしれない。

水生植物に対する彼らの凄い食欲を紹介しよう。写真のようにトチカガミ（この水生植物もかつては荒川下流域に分布していたようだが近頃全くみかけない）が繁茂しているコンテナに体長4cm以下のザリガニ40個体を入れたところ3日後には食害が目立ち始め、2週間後にはほとんど食べ尽くされてしまった。如何に凄い食欲かおわかりいただけると思う。



試験開始

3日後

2週間後

淡水域では水生植物、水生昆虫、魚類等に多くの種が絶滅危惧種にリストアップされている。全国レベルで水環境の質的低下も叫ばれている。これらには、ザリガニによるすさまじい食害が大きく関与していることは間違いないと思われる。例えばメダカひとつにとっても、

卵は水生植物に付着して成長するが、その水生植物の著しい減少が絶滅危惧種になった要因と思われる。また、減少が目立つイトトンボ類の多くは、沈水、浮葉植物が大切な産卵場所なのである。(植物産卵するトンボは多く、またヤゴもザリガニに食べられる) もちろん水域の環境劣化をザリガニだけのせいにする気はさらさらしない。水質汚濁や水域のコンクリート化等にも原因はある。それでもザリガニさえいなくなったらどんなに良かったかと思う昨今である。

### 赤塚池のようす

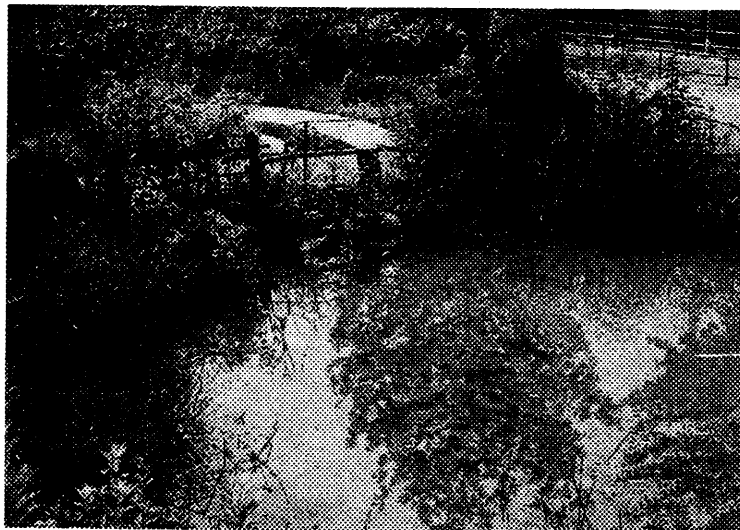
9月2日美術館の自然池でザリガニ114匹捕獲しました。それも大型ばかり。とれた数は、池にいるザリガニのほんの一部。いったいどのくらいいるのか見当もつかない。池には30cm位のヒゴイが見えかくれし、「黒っぽい大きな魚がいるよ」、「カメもいるよ」と教えてくれる人も・・・なんとかしてトンボやカエルが生きられる池にできないものか。みなさんも機会あるごとに「飼っている生き物を公園に放さない」ようPRをお願いします。しかし箱舟の中は、荒川の水草(コナギなど)、セリなどは順調で、なつかしい浮き草もびっしり増えています。浮島も今のところ無事。

7月30日、増山さんより、カワセミが来たと報告がありました。カワセミやゴイサギはザリガニの天敵。池のまわりの植物が丈高く生えて目隠しになり、水鳥が安心してエサをとれるといいですね。

### 徳丸が原公園は今

徳丸が原公園の池をつくるときに、水研クリエイトの尾坂さんのアドバイスで荒川の土をとってきて撒きました。その結果池のなかからいろいろな水草が出てきました。ここにもキンギョが10匹ほど居着いていましたが、ヒゴイが入ってきました。

高島第1小学校荻野先生と生徒さんで移入魚を捕獲したり、荒川の水草を植えるそうです。



### 8月28日 今日ニュースです

瀬田政江

今朝隣の物干しに、珍しい色、珍しい柄の猫が居るのでグレイがかった茶色、黒と白の襟巻きで、しばらく見ていると、鼻が長くて、口がとがっていて、何と狸でした、板橋で狸を見るのは、初めてで、感激の余り、お便りしました。

場所は前野町5丁目、日暮台公園を根城にはしていないか。今年の冬はタヌキ捜索隊が出動予定

## 遠い昔の暮らしと自然 (6)忘れていた湧き水を尋ねて

矢田 茂

体調をくずし、しばらく水と緑に縁が切れていました。さいわい医者や家族の同意をえただけの、気促な手伝ですがよろしくお願ひします。

さて、以前に湧き水を調べたことを思い出し、8月の中ごろ久しぶりに水辺を歩きました。視点は水辺ですから、あまり関心のない方もおられるでしょうが、水と緑の情報とご理解下さい。回った場所は雀の涙ほどの湧き水ですが、これは板橋の地下が生きている、乏しい灯火のサインです。しかもその合図を呼び水にすれば、子供が使う水辺ぐらいであればと、関心を深めた所を二箇所ほど選びました。

一つは志村二丁目、城山公園の水場。以前のここは、小さな水場に子供の戯れはありました。しかし現在は、僅かな湧き水の排水路が、どぶのような水たまりになって、残念なことに子供の姿はありません。細々とした湧き水でも取組方によっては、子供の集まる水辺なら充分におもいました。

次は赤塚八丁目、不動公園の不動の滝。ここの水量も風前の灯火です。しかしこれも湧き水に活用がなく、ダイレクトに排水されていました。史跡ですから、保存の意味もありましょうが折角の湧き水だけに、活用のない排水だけは避けたいものです。

幸い付近は、乗蓮寺の崖下にビオトープにするほどの湧き水もあり、水路は都立美術館裏に、板橋の無形文化財とも言える唯一の、暗渠でない水の流れがあります。これらの湧き水を点に水路を線にすれば、美しい流を見せるでしょう。

このことは、私たちの身体にある仕組みにもいえます。最近よく言われている、血液の汚れによる血行がサラサラと流れず、血管の障害が喧しく言われていますが、これなんかも暮らしの毛細血管ともいえる、地域の水路を無視したことに似ています。

まず流す排水は、食事と同様に添加物の含まれたものが多くなり、それを自然に浄化していた水路は、人間の都合により瞬く間に、人工浄化の下水処理となりました。一度処理場を見てください、でてくる汚泥は一度私たちの体内を通過したものばかりです。このことを比較すれば暮らしの周辺に、美しい血液ともいえる清らかな湧き水は、人の住む地球では欠かせないものとおもいます。

子供のころ覚えた歌の「春の小川はサラサラいくよ」の一節は、サラサラと流れる小川を、血液や血管に求めるように、歌詞は情緒的でなく子供への、情操も含めた戒めに思えてなりません。

私たちは、これらの仕組みをいま一度ふり返り、世代に残す環境にサラサラ流れる小川の再現を、水と緑の運動には心掛けたい思いました。

会報7月号の「自然を壊してできたけやきの公園」について、整備した板橋区みどりと公園課から異論がありました。また計画づくりから維持管理までに参加されている「グループけやき」代表の萩原菊男さんから会に対する質問（と経過報告）が出されたのでご紹介します。なお、萩原さんの質問に対する運営委員会の見解も記しましたが、公園整備や公園のあり方について、みなさんのご意見をお寄せください。

## 自然を壊してできた「けやきの公園」について

みどりと公園課

7月15日号に掲載された前野町の「けやきの公園」への意見についてコメントさせていただきます。

「けやきの公園」は、ワークショップ方式によって計画から管理まで1年半かけて議論しあつてできた、最近では珍しい住民参加型公園の例です。公園の価値をどこに置くかは様々な見方があり、地域によっても意見は異なります。つまり、公園のコンセプトの多様性がまた公園づくりの一大特色となっているわけです。

コンセプトは、地域の意思を尊重した結果になりやすいことは、言うまでもありませんが、比較的広域対象の公園計画となれば、時代が求めるニーズを地域を超えて客観的に組み入れていく必要もあります。「けやきの公園」は、どちらかという地域コミュニティの活性化や防災、ボランティア活動の受け皿といったコンセプトで整理されており、過去から引き継がれた2本の樺は郷土自然の象徴として今後も大事にしていきたい、とワークショップで合意されたものです。自然という意味は色々ありますが、相応にワークショップでも尊重されていると思います。

公園は都市の様々な要請に応えなければなりません。レクリエーション、スポーツ、教育文化、コミュニティ活動など色々な表面利用を求められますが、全てを同時に満足させることは小規模ゆえに無理が生じます。自然を大切にする設計はどんな利用の場合でも重要なことと考えていますが、地域での合意がえられれば、自然そのものをテーマとする公園もあり得ます。公園づくりは、一面的な考え方で進めるわけではなく、都市の不可欠な施設として地域の理解を前提に、存在価値の大きいものにしていかねばなりません。

## 広報誌「みずみどり」掲載内容についてのお尋ね

グループ けやき 代表 萩原 菊男

去る7月15日発行の貴広報誌「みずみどり」5ページに掲載された自然を壊してできた「けやきの公園」に関し、いくつかの事実誤認等が確認され、けやきの公園の運営主体であ

る「グループけやき」として、その根拠を把握したく、下記の点お尋ねいたします。

1. けやきの公園ができるまでの経過を知っているかどうか
2. 取材、情報収集をどこまでやったか
3. 記事をのせた趣旨は何か

### 付記:けやきの公園設立の経過と「グループけやき」について

けやきの公園の前身は、鉄筋コンクリート建ての工場とその奥に居宅がありました。平成9年、突然工場が壊され、ガレキの山から、けやきの大木2本と、桜2本、楠の他1本の木が残った。そこから地域の公園建設に対する運動が始まった。その利用方法について地域の多様な意見を集約し、要望として、みどりと公園課に提出した。その後、板橋区は住民参加によるワークショップ方式（合議形式）を採用する決定をし、11回の会議と、地域での意見をまとめる会議は十数回におよんだ。深夜遅くまで熱心な討論であった。その結果、地域の防災公園、地域交流の広場、自然の花を育成する公園、けやきを中心に、有る樹木の他は、背丈の小さな樹木にし、明るい公園をめざし多目的な公園が完成した。開園式も地域と区の共催とし、開園後の運営については、ボランティアによる自主管理と決めた。この団体は「グループけやき」と命名され、板橋区と協定を結び、里親制度第1号の公園となった。現在、毎日曜日の清掃、草取り、手入れと、毎日朝晩の草花、樹木への水やりが行われている。この公園名の名付け親でもあり、トイレ壁面の絵を書いてくれた富士見台小学校の生徒が育てたひまわり、コスモスの他、テーマである「野の花」を中心に30種以上の草花が、ベンチで憩う人達の目を楽しませている。

自然と環境が共存するという事は、地域の人々の助けがないと無理であり、事実ここでも、工場が壊された後の空地だった時、雑草が伸び放題となり、ゴミ捨て、犬のふん、悪臭等で苦情が絶えなかったことでも立証される。

この公園は、地域住民の思いで建設されただけあって、暮らしやすい環境、町づくりに十二分に配慮された地域の誇れる公園に育ちつつあります。それぞれに自然観の違いがあるように思いますが、身近な植物を大切にする精神は皆おなじです。けやきの公園へ入って、愛情のこもった草花の表情を見てください、私達が地域なりの自然を大切にしていることが、わかっただけだと確信しています。また、地域への情報発信にも、気をくばっています。掲示板もご覧ください。

### いたばし水と緑の会はこう考えます(荻原さんの質問に対して)

質問1について：けやきの公園が地域住民が参加するワークショップにより設計されことは承知しておりました。

質問2について：記事を書くに当たり取材はしていません。ワークショップの議事録も見せておりません。

質問3について：記事を掲載した趣旨は次の通りです。

板橋区の先進的な環境都市宣言では「私たちは、みどりや水、空気を大切に守り、様々な生物が共に生きていける環境づくりに努めます」とうたわれています。しかし現実には斜面林などの自然地は私有地であり、農地など自然が残っている地域も私有地です。これらの残された自然は開発によって次々と消えていきます。だからこそ行政は新たに整備する公園には自然度を少しでも高める努力をしてほしいと考えます。「身近な公園を思う」は、人間本位・地域本位の公園づくりに対する問題提起として連載していくものです（具体的な議論や読者の意見は次号以降に譲ります）。

---

## 事務局から

### 臨時総会の報告

8月4日（金）6時30分から、産文ホールで臨時総会を開きました。参加者14人プラス委任状20通で総会は成立し、欠員となった運営委員として瀬田政江さんが選ばれました。そのあと、クリーンエイドや区民まつりの参加などについて話し合いました。臨時総会は、久しぶりにみんなで話しあえるよい機会でもありました。

### ★今年のクリーンエイド

これまで笹目橋緑地で実施していましたが、野鳥クラブと遊びの会が生物生態園で実施することになり、当会も仲間に入れてもらうことになりました。

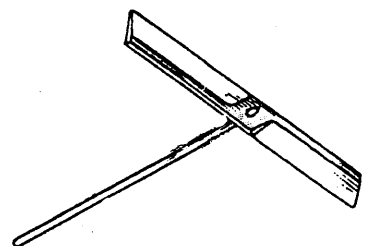
### ★区民まつりに参加します

区民まつりへの参加は今年初めてです。環境会議が開かれるようになって5年目にあたりで区民まつりに市民団体のブースを出すことになり、下田さんよりいたばし水と緑の会でも参加したいという提案がありました。会のPRパネル展示とあわせて、竹とんぼ用セット（作り方説明付き）を希望者に提供することになりました。竹とんぼは、材料さえあればムラムラと作ってみたいくなるもの。竹とんぼを通して、会の活動に関心をもってもらえればというもの。なお、竹は赤塚公園の竹林の管理で切られた竹を有効利用するものです。

というわけで、竹班では、9月2日（土）記録的な猛暑のなか、汗だくになって竹とんぼセットを用意しました。

区民まつりは10月21日（土）、22日（日）です。

お手伝い下さる方は下田（3955）0803まで。



# 活動のお知らせ

どなたでも参加できます。くわしいことはそれぞれの連絡先にお問い合わせ下さい。

運営委員会は具体的な活動の内容を話し合い決定する場です。従来の定例会はなくなりますが、運営委員でなくても運営委員会に参加しどしどし意見を言ってください。

10月運営委員会 10月6日(金) 18:30～20:00 エコポリスセンター3階会議室  
 11月運営委員会 11月2日(木) 18:30～20:00 エコポリスセンター3階会議室  
 11月会報印刷・発送 11月15日(水) 17:30～ エコポリスセンター3階会議室

## ●徳丸が原公園観察会と植物調査

日時：9月23日(土) 13:30～16:00  
 場所：徳丸が原公園  
 連絡先：大西(3938) 3106

## ●竹を使って

日時：10月7日(土) 13:30～16:00  
 11月4日(土) 13:30～16:00  
 場所：美術館前(作業も池の前で)  
 内容：ウォーキングで竹を使った工作をするのでその準備をします。  
 持ち物：小刀、軍手、見本、付属品等  
 連絡先：猪鼻(3933) 8269

## ●池の観察・管理とザリガニ退治

日時：10月7日(土) 10:00～12:00  
 11月4日(土) 10:00～12:00  
 場所：美術館前  
 連絡先：滝川(3934) 3421

## ●赤塚全体世話人会

日時：10月14日(土) 10:00～12:00  
 場所：赤塚5丁目集会所  
 内容：赤塚でやること・やりたいこと・自然発見ウォーキングの内容等。  
 午後は柵づくりです。  
 連絡先：植田(3958) 9209

## ●赤塚公園斜面林保護柵づくり

日時：10月14日(土) 13:30～16:00  
 場所：美術館前(遅れてきた人は直接)  
 内容：あかみち(郷土資料館の先の城址へ登る道)に沿って斜面を保護する柵を作ります。  
 ニリンソウを守る会と協同作業。  
 連絡先：植田(3958) 9209  
 または大西(3938) 3106

## ●荒川クリーンエイド

日時：10月29日(日) 10:00～12:00  
 雨天の場合は11月5日(日)  
 場所：荒川生物生態園前  
 三田線西台駅下車15分  
 連絡先：下田(3955) 0803  
 持ち物：弁当、飲み物、皿、はし、その他  
 共催：板橋自然と遊びの会、いたばし野鳥クラブ  
 午後は各会独自プログラム。水と緑の会はバーベキュー後、新しくできたピオトップの観察会をします。

## ●予告：赤塚公園自然発見ウォーキング

日時：11月18日(土) 10:00～16:00  
 場所：赤塚公園  
 応援よろしく